

はじめよう！SDGs

「SDGs(エス・ディー・ジーズ)」とは、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略称であり、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までにによりよい世界を実現するために達成すべき国際目標です。世界中の人々が安心して快適に暮らし続ける未来のために、国際社会が協働して取り組む17の目標が設定されており、

岐阜県では、SDGsの実現に向けて様々な取り組みを展開しています。

私たち一人ひとりも、身のまわりの社会問題や環境問題などの様々な課題を「自分ごと」として捉え、積極的に取り組んでみましょう。



清流の国ぎふ憲章

～豊かな森と清き水 世界に誇れる我が清流の国～

岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤しています。そして、「心の清流」として、私たちの心の奥底にも脈々と流れ、安らぎと豊かさをもたらしています。

私たちの「清流」は、飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨き、千有余年の歴史を誇る鶴飼などの伝統文化を育むとともに、新たな未来を創造する源になっています。

私たち岐阜県民は、「清流」の恵みに感謝し、「清流」に育まれた、自然・歴史・伝統・文化・技をふるさとの宝ものとして、活かし、伝えてまいります。

そして、人と人、自然と人との絆を深め、世代を超えた循環の中で、岐阜県の底力になり、100年、200年先の未来を築いていくため、ここに「清流の国ぎふ憲章」を定めます。

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

- 知** 清流がもたらした自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます
- 創** ふるさとの宝ものを磨き活かし、新たな創造と発信に努めます
- 伝** 清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

平成26年1月31日 「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議

「SDGs未来都市」岐阜県 | 
岐阜県は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワーク

岐阜県では、SDGsの情報発信・共有、会員間の連携やマッチング支援を行う「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークを設置しています。詳しくは岐阜県ホームページをご覧ください。



アンケート

今後の事業の参考とするため、右のQRコード、または、会場出口に用意しております用紙からアンケートにご協力いただきますようお願いいたします。



清流の国ぎふ SDGs推進フォーラム2022

2015年に採択されたSDGs。2030年を期限とするこの国際目標は、いよいよ来年「折り返し地点」を迎えます。この間、企業・自治体・学校・地域など様々な場所で、ゴール達成に向けた努力を積み重ねてきました。今、わたしたちに必要なものは何か。SDGsの本質に迫り、その答えを探ります。

2022年 **10**月**4**日[火]

時間 13:30～15:30

場所 ぎふ清流文化プラザ 2階「長良川ホール」
(岐阜市学園町3-42)

13:30～ **開会 知事あいさつ**

第1部 **基調講演 (60分)**

肝心なのは「つながる・つなげる」こと

～一人ひとりの努力を「持続可能な世界」に向けた大きな流れにしていけるために～

14:45～ **第2部 パネルディスカッション (45分)**

わたしたちの考えるSDGsのカタチ

篠田 花子 氏 (一般社団法人ヒトノネ 代表理事)

神田 浩史 氏 (NPO法人泉京・垂井 副代表理事)

松永 宗憲 氏 (坂下小水力発電株式会社 代表取締役)

三島 愛 氏・瀧 朋花 氏 (郡上北高校3年生 食品ロス減らし隊リターンズ)

主催:岐阜県



第1部 基調講演 13:30～(60分) ※第2部 パネルディスカッションにも登場

肝心なのは「つながる・つなげる」こと

～一人ひとりの努力を「持続可能な世界」に向けた大きな流れにしていくために～



講師: **稲場 雅紀** 氏

NPO法人アフリカ日本協議会共同代表、
政府「SDGs推進円卓会議」構成員 他

- ・1990年代に都市貧困問題やLGBTの人権に取り組んだ後、2002年からNPO法人アフリカ日本協議会でエイズなど感染症や保健の課題に取り組む。
- ・2005年以降、途上国の貧困の軽減を目指す国連の「ミレニアム開発目標(MDGs)」の達成のための啓発や政策提言に従事。2012年から市民社会の立場から国連のSDGs策定プロセスに参加。
- ・2016年から政府「SDGs推進円卓会議」構成員。2020年に岩波新書「SDGs危機の時代の羅針盤」を共著。

SDGsが始まってから7年、2030年の達成まで来年で中間年を迎えるという時に、世界は「安心」ではなく「危険」になっているのはなぜなのか、SDGsの誕生、そして本質を探っていきます。

2012年コロンビア共和国外務省の環境局長であったパウラ・カバジェーロ氏がSDGsを発案。途上国出身のリーダーたちが策定プロセスをリードし、2015年に17のゴールと169のターゲットから成る「SDGs」が採択されました。

その後、2019年のSDGsサミットでグレーテス国連事務総長が「このままではSDGs達成は難しい」と発言し「行動の10年」を提起したことから、2020年より「行動の10年」が始まりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大によってSDGsの取組みは後退しています。

「地球の限界」の危機、「地政学的転換」の危機、「科学技術イノベーション」がもたらす危機と3つの危機によって見通しがきかない状況に直面しており、私たちはこれらの危機を乗り越えなければなりません。

この高いSDGsの目標達成に向けて、「一人ひとり」から「みんなで」取り組んでいくことが必要です。

SDGsもあと8年。「つづく世界」への道をみんなでつづいていきましょう。

第2部 パネルディスカッション 14:45～(45分)

わたしたちの考えるSDGsのカタチ



篠田 花子 氏

一般社団法人ヒトノネ
代表理事

子どもたちの好奇心を刺激し、考える力を育む学童保育事業を運営。毎週水曜日にはSDGsなど社会課題がテーマのアクティブラーニング

「サス学」の学習会を開催し、子どもたちに地球環境の未来について学ぶ機会を与える。また、市民講師による体験授業では職匠に来てもらい、子どもたちに地元の伝統文化を伝えている。企業や学校と連携したSDGsの学習も行い、地域の子どもたちを中心にSDGsの大切さを発信。不登校児童の居場所づくりや子育て支援を通じた女性の働きやすいまちづくりを実践している。



松永 宗憲 氏

坂下小水力発電株式会社
代表取締役

2010年に飛騨市宮川町にトマト農家として移住。2011年の東日本大震災をきっかけに原子力発電の危険性を感じ、水が豊富で高低差のあるこの土地

であれば自然のエネルギーを利用した発電が可能ではないかと地域の協力を得て、宮川支流で小水力発電事業を始める。人口減少、過疎化というマイナスのイメージがある土地でも、そこで暮らす自分たちの生活を豊かにすることができることを活動を通して発信。再生可能エネルギー電気の「地産地消」による持続可能な地域づくりを目指す。最近では、ガソリンスタンドの後継者不在による閉鎖を、地域の人たちからの依頼もあって、自身が経営を続ける。



神田 浩史 氏

NPO法人東京・垂井
副代表理事

ODAの開発コンサルタントとしてタンザニア、ナイジェリア、バングラデシュなどで農業開発に従事。その後、主に東南アジア各地の地域づくりの

現場を調査研究し、日本政府の国際協力・ODA政策策定に関わる。現在は、NPO法人東京・垂井の役員として、地域を見つめ直す地産地消や世界とつながるフェアトレードを実践。毎年開催している「フェアトレードデイ垂井」は今年で11回目を迎え、来場者が1万人を超えるイベントとなっている。また、地域づくり、環境、水、川、NPO、NGOなどに関する講演や、企業や事業者へSDGsの非営利コンサルタントを行う。



三島 愛 氏・**瀧 朋花** 氏

郡上北高校3年生
食品ロス減らし隊リターンズ

高校1年生の家庭科の授業で「食品ロス」について知り、その数の多さに驚く。食品ロスを減らす取組みを実践してみたいとの思いから、食品ロス

減らし隊リターンズを結成。地元の小中学生や地域へ食品ロス削減の大切さを呼びかけ、昨年3月、長良川鉄道美濃白鳥駅で、廃棄予定の食材を活用した1日限定の駅舎カフェを開いた。廃棄予定のおからを用いたパウンドケーキや規格外の野菜を活用したカレーなどのメニューを展開。その取組みが2021年「SDGs Questみらい甲子園」東海エリア大会 朝日新聞社賞を受賞。



YouTubeによる生配信

●右記URLまたは二次元コードより視聴いただけます。

岐阜県公式
チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UChvulQxZmeK6odwQ-2t72ZQ>

